



7月20日、21日の2日間、フェアトレードフェスタ in さっぽろ 2024 にセカンドハンド北海道が出店しました。共同出店の北海道 YMCA はベトナムの障がい者が作ったビーズ細工を、斜め向かいのブースではラオスのハーブティーを、セカンドハンドはカンボジア女性のクラフト品を販売と、たまたまメコン川流域国支援団体が並びました。フェスタでは今年もブース出店の他に講演会やワークショップ、アイヌ音楽のパフォーマンスなどのステージイベントがあり、市民がフェアトレードに親しむ機会となつたと思います。



8月2日は学習院大学の学生13名に、8月23日は東京女子学園中学校・高等学校の生徒11名に、フェアトレードについてのお話をさせていただきました。研修の記念品として、ラチャナハンディクラフトで作られた箸袋をプレゼントしました♪ 東京女子学園の先生方には、協力隊珈琲とアニマルストラップとのコラボセットを、お土産にお買い上げいただきました！ コラボセットはネット販売も行っています。



カンボジアの奨学生に向けてメッセージカードやペンケースを作成しプレゼントしました！これからもこのような交流を通して親睦を深めていきたいです。また、10月19日にはセカンドハンド設立30周年記念事業として、イベントが開催されます。ユースメンバーはカンボジア語でネームプレートを作るワークショップを手伝えます。是非お越しください！ 奨学生の支援のため、毎月約2回ほど高松中央郵便局前で募金活動を行っています。興味のある方はご連絡ください！ これからもユースをよろしくお願いします！（メンバー：森）



6月～8月までの3か月間にご寄付をくださった方々です。【順不同・敬称略】 青野千恵子、伊賀憲子、池内保、上田瞬介、大森康正、大田千恵美、岡本洋功、岡野道子、小笠寛幸、奥谷照榮、柏原裕美、片山績、亀山誠子、川崎多恵子、喜多和也、黒田好子、吳妙専、四宮香代、清水博子、下地初子、白川ふみ、末澤一誠、高松ロータリークラブ、高松東高校マンガ研究部、高木美枝子、高瀬稔彦、田中正利、俵恵美、塚田泰代、土屋徹秋、中澤力、西川亜里、西川みさご、沼田章、のぞみ総合法律事務所、橋田洋一、蓮井孝夫、畠中妙子、林香子、福島玲奈、松木みのり、三木佳子、美濃吉広、宮本明宜、宮坂佳世子、山本博美、横田千春、吉本房子、若杉淳子、綿邊亞弥、渡部御千子

## 本部・高松店 年末年始休業：12/28(土)～1/2(木)

〒760-0055 高松市観光通1-1-18

TEL: 087-861-9928

営業時間：月～金 10時～16時

定休日：土曜、日曜、祝日

## 片原町店 年末年始休業：12/29(日)～1/2(木)

〒760-0040 高松市片原町9-1

TEL: 087-822-3552

営業時間：月～金 10時～18時

土・祝日 10時～17時

定休日：日曜

## 松縄店 年末年始休業：12/29(日)～1/2(木)

〒760-0079 高松市松縄町37-5

TEL: 080-4999-0494

営業時間：月～水、金・土 11時～18時

定休日：木曜、日曜、祝日



セカンドハンドは「チャリティーショップ」と呼ばれるお店を運営し、その収益でカンボジアの支援をしています。

公益社団法人 セカンドハンド

〒760-0055 香川県高松市観光通1-1-18 TEL&FAX 087-861-9928

✉ jimukyoku2hand@yahoo.co.jp http://2nd-hand.main.jp/sh/

# あなたの手を、世界の誰かに。 SECOND HAND

Sambot  
セカンドハンド通信

設立30周年記念事業のひとつとして、トムポー小学校の新校舎建設支援を行います。9月上旬、セカンドハンドのボランティア3名と学校の視察に行ってきました。2020年に地域住民によって建てられた木造校舎で学ぶ5・6年生の複式学級にてクメール語で自己紹介。午後には3・4年生の複式学級の児童たちがこの教室を利用します。校長のチェンさん（白いYシャツ着用、30代）は、「一見立派に見える校舎も、雨漏りの被害が深刻です。トタン屋根に雨があたる音で先生の声が全く聞こえなくなり授業になりません。」と状況をお話してくださいました。（視察協力：シャンティ国際ボランティア会）



Contents  
カンボジア渡航報告  
片原町店リデザインの実施  
Network  
Special Thanks

# カンボジア 渡航報告



専門家との事前勉強を活かし、子どもたちに指導をするホームランドスタッフ

## 舟越和代さん

1日目に、ホームランドのスタッフに糖尿病と高血圧について講義をしました。糖分や塩分を控えること、運動することが大切だということなど、しっかり伝わったと思います。翌日は、スタッフから子どもたちにわかりやすく興味を引くような指導をすることができました。子どもたちの健康チェックでは、大きな問題となる子どもはいなくて安心しました。身長、体重、視力、体温など、スタッフが継続してチェックするようにお願いをしてきました。今後、それが定着するような支援が大切だと思います。



家庭内は、ひと間を区切るかたちで奥にベッド、手前に台所の配置



## 堀美紀子さん

最終日に4軒の家庭訪問を実施しました。子どもたちは、前回習った栄養の話もちゃんと覚えていました。各家庭に配布した大豆はほぼ食べ終わっていて、もともと大豆を食べる習慣があった家庭では、追加購入をしていました。大豆の栄養価の高さを学び、生活に取り入れてくれていたようで嬉しく思いました。

ホームランドと連携し、2か年計画で栄養指導を実施しています。対象は、支援を行っている貧困家庭で暮らす子どもたち約35名とその家族です。前回に引き続き、専門家2名にご協力をいただきながら、3日間実施しました。この日集まってくれた60名に対し、塩分・糖分過多の食生活を改善するためホームランドスタッフが指導を行いました。また、健康チェックや家庭訪問を通じ、子どもたち自身が自分の身体について関心をもつことができるよう働きかけを行いました。



Chhorvorn とお母さん

## 末澤一誠さん

10年以上セカンドハンドでボランティアをしていますが、初めてカンボジアに行ってみようと思いついたとき重い腰をあげました。自分も高齢になり、この先海外に行く機会が生まれるかと考えたときに、最後のチャンスだと思いました。今回の渡航の目的のひとつは、支援をしている里子の Chhorvorn に会うことです。これまでには、年2回彼女からのレポートを受け取ったり、私から手紙を送ったりするだけの繋がりでしたが、ついに対面が叶いました。話をしてみると、私と一緒にシャイで、しっかりとしたいい子でした。彼女の家を訪問してみると、想像していたより厳しい生活を強いられているようで驚き、支援を続けていく必要性を感じました。



キリングフィールドやトゥールスレン虐殺博物館を訪れ、戦争の怖さを認識しました。文化や教育もゼロになった状態から、ここまで立て直すのは大変だっただろうと思います。

セカンドハンドや本などから手に入れられる情報で、カンボジアに行かなくても十分わかったつもりになっていました。百聞は一見にしかずという諺がありますが、本当にそのとおりです。実際の現場でセカンドハンドの支援を感じられてよかったです。そういう意味でとても意味のある渡航でした。

少子高齢化でお年寄りばかりの日本と違い、カンボジアは、はにかんだ笑顔の子どもだらけの素敵な国です。ぜひ皆さんも行ってみてください。



## 片原町店 リデザインの実施

セカンドハンド片原町店は、この冬に店舗のリデザインを予定しています。ロイダッツ(※)が行う全国チャリティショップリデザイン事業の中で、今年度は設立30周年ということもあります。セカンドハンドが選ばれたため、相談しながらリデザインを実施することとなりました。

皆様がより見やすく利用しやすいお店になりますので、楽しみにお待ちください。



(※) 東京中心に全国でポップアップを展開するチャリティショップ。コミュニティ・ディスプレイデザイン、プロモーション企画などに携わってきた経験を生かし、各地のチャリティショップのリデザインにも取り組む。